

# せわやがトカラ情報

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号  
TEL 099-227-9771

南北 160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

## 1 月…教育論文

十島村教育長 有村孝一

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。平成 28 年が明けました。それぞれ希望に満ちあふれた新年を迎えられたことだろうと思います。今年、丙（ひのえ）申（さる）というそうです。「申」という字は、「樹木の果物が熟して固まっていく様子」を表したものだそうです。動物のサル自体には特に意味はありませんが、サルは木と関係の深い生き物です。申の字の由来とも相性はよさそうです。

さて、今年も 1 月 11 日の成人の日に、多くの関係者の出席をいただき、十島村「新成人を祝う会」が開催されました。今年の新成人は、3 人の山海留学生を含む 10 人でした。そのうち 6 人の皆さんに出席していただき、アットホームな中にも盛大に行われました。

ところで、1 月 13 日・14 日の両日、鹿児島学習定着度調査が行われました。対象は小 5 と中 1・2 です。これは、子どもたちがどの程度、基礎・基本等を身に付けているかを調べるものです。また、毎年 4 月には、小 6 と中 3 を対象にした全国学力・学習状況調査が実施されています。

このように、小 5 から中 3 までの学力の状況等について、総合的に把握していこうという体制が整えられています。子どもたちの学力向上や維持に欠かせないのが、教師の指導力ということになります。海を隔てている本村にとって、教師の研修機会というのが限られています。そのような中で、我が村の先生たちは、自己研鑽に励んでいます。日頃の研究や実践によって

得られた成果をまとめたものとして、毎年、今頃に教育論文・教育実践の募集があります。研究をまとめるということが、どれだけ先生たちにとって有意義なものであるかは、言うまでもありません。教師

としての今後の自分の指針にもなります。また、将来的に振り返って見返すことにより、自分の成長を感じさせるものとして大変役に立つものです。そのことが、ひいては、児童生徒の学力の向上につながっていくこととなります。本村には、62 人の教職員がいます。その 98% の先生方が論文募集に応募しており、研修意欲の高さがうかがえます。また、期限付きとして赴任

しています先生たちは、全員これに取り組んでいます。論文の書き方等学ぶことが多いのではないかと思います。何より、このような地道な取組こそが、児童生徒の学力向上へと結びついていくものであると、強く信じるものであります

提出された論文は、審査会を経て、特選に選ばれた中から数点は、教育論文・教育実践記録集「波動」に掲載されることとなります。今年も、すべての論文を読まさせていただきましたが、先生たちの熱意が紙面から伝わってくるようで、それが子どもたちに伝わり、学力の底上げとなることを期待してやみません。

## 祝 十島村「新成人を祝う会」開催

1 月 11 日の成人の日に、十島村「新成人を祝う会」が十島村役場で行われました。十島村立の中学校を卒業して新成人を迎えた方が 9 人、現在十島村在住で新成人を迎えた方

が 1 人の計 10 人が対象でしたが、当日は 6 人の方に出席をいただき、御家族や恩師、村長や教育長以下役場職員等含めて参加者 43 人の盛大なお祝いとなりました。式典の中で、平島中学校出身の徳満佳奈さんは「人との出会いを大切に」、同じく日高愛恵里さんは「大人としての責任感を強くもつ」、日高翔平さんは「社会人としての自覚をもつ」、悪石島出身の有川真里奈さんは「自分の行動に責任をもつ」、悪石島在住の太田有哉さんは「悪石島で一生暮らしたい」、小宝島分校卒業の早川将大さんは「大人としての誇りや自信をもつ」などと、新成人の抱負を語ってくれました。記念撮影の後、祝賀会が行われました。祝賀会では、大迫元信氏の講演があり、「夢を持ち、その実現に向けて努力する人になれ」とエールが送られました。

その後、新成人らは、恩師や家族、里親等と食事しながら和やかに語り合い、楽しいひとときを過ごしました。会場の様子は、TV 会議を使って、出身の島へ



映像と音声の流れが島にいらっしゃる御家族や御親族、お知り合いの方にも観てもらいました。

十島村から巣立っていった若者が、それぞれの夢を叶えることを願い、みんなで賑やかにお祝いをすることができました。参加できなかった 4 人も含めて 10 人が、今後益々活躍されることを期待したいと思います。

## 灯 シリーズ——島で暮らす 十島村の学校で生活して 「みんなといっしょに作る音」 中之島中学校 2 年 宮村 知宏

「御岳（おたけ）！！」これは、太鼓をたたくときのかけ声です。太鼓を指導して下さった先生が、中之島小・中学校の僕たちのために作曲された「御岳」に出てくるかけ声で、練習に練習を重ねて完成させた思いで深い曲です。お父さんの仕事の都合で、中之島に行くことが決まった時、一番びっくりしたことは、全校児童生徒で太鼓演奏をしているということでした。僕は、リズムよく演奏することが苦手だったので、すごく不安でした。この島に来た時、初めて太鼓の音を聞いて、ますます不安が高まりました。そんな不安をつのらせながらも、練習するうちにできるようになったことがあります。リズムに乗って演奏することです。まだ、完璧ではありませんが、リズムよくたたくことで、みんなと一つの曲を作り上げる喜びを感じられるようになりました。僕は今、中之島太鼓の部長として頑張っています。太鼓の持ち曲すべてをマスターしたわけでもないし、みんなと同じように上手にたたけるわけではありません。「部長が僕でいいのか」と思うときもありますが、上手にたたけない分、声だけは大きく出すように心がけています。元気な声を出すことでみんなを引っ張っていかれたらと思います。みんなといっしょに元気に演奏できたときがうれしいです。僕は中之島に来て、太鼓を通して学んだことがあります。それは、一人ではできないことも、みんなでやればできるということです。「1 人では小さな音でも、みんなの音が合わさると大きくて様々な音色が出せる。」と太鼓の経験から感じたことです。これからも僕は、自分の得意なところを生かしながら、みんなと助け合い、どんなことにも一生懸命に取り組みたいです。



## 笑 シリーズ——新聞に投稿 「最後の文化祭」 宝島中学校小宝島分校 3 年 福本 裕大

「今年で最後かあ」と先生の話聞きながら思った。そう今年が中学校最後の文化祭だった。精一杯頑張ら

なければいけなかったのだが、一つ問題があった。それは、僕がとても面倒くさがりということだ。今年こそは面倒くさがらずに、しっかりやろうと決めた。頑張ったのは小中合同の朗読。なぜ小学生もいるのかという、小宝島には小学生と中学生合わせて 13 人しかいないから。いつも小学生と中学生と一緒に、同じ校舎で勉強している。文化祭も小中合同で行う。サトウハチローの「美しく染め上げてください」という詩の群読に挑戦した。最初は何度も間違えたり、忘れていたりしていたのだが、練習を積み重ね、最高の発表となった。どうしたらこの作者の思いを人に伝えることができるのか、詩にほとんど興味のなかった僕が一つの詩について深く考えた。

文化祭は今年のスローガンである「みんなで届けよう、輝く笑顔をプレゼント」の通り、島民の方々を笑顔にすることができた。中学生生活も残り 5 か月。高校受験も近づいている。小宝島分校を笑顔で卒業できるように勉強も学校行事も頑張っていきたい。

## 十島村の小・中学校からのメッセージ 宝島中学校 教諭 寺床 由紀子

宝島に限らず十島村のすべての島でもそうだと思いますが、「自立」という言葉がよく似合います。社会生活のほとんどが一つの島の中で成り立っているからです。島には役場の出張所があります。診療所があります。発電所があります。学校があります。温泉もあります。島内に仕事場があって、島内に帰る家があります。荷役作業は青年団がしています。行事の料理は婦人会が作っています。老人会の方々が植え込みの手入れなどを行っています。クーラーの取り付けなども、島民の方は、自分たちですべてしています。重機の運転もしています。給食のパンも、調理員さんが、当日に一から作っています。自治会があり、総会があって、収支のことなど市町村規模ではなく、島単位での話し合いがなされている場に参加することで自分もここで生きている一員なのだ改めて自覚することもありました。島では何でも自分たちでやらなければなりません。ひとり一人がたくましく自立し、その力を合わせて生活を成り立たせています。宝島の子供もたちは、そんな大人をたちのかっこいい姿を身近に見ながら成長します。人数が少ないので、学校ではひとり一人が役割を果たさなければならず、出番も多いです。

そして、たった 15 歳で親元を離れなければなりません。こうやってまた、たくましく自立あふれる大人に成長していくのでしょうか。

## 教師仲間である「あなた」への 私からのメッセージ

私は、小中併設校勤務が 2 回目ですが、普通は 1 回さえも巡ってこない貴重な経験だと思います。私は、小学校の免許を持っていないので、小学校の様子を知ることが、学校教員としての指導のあり方を考える上でも、確実にプラスになっています。